平成31年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）
（実施段階）
【分掌・教科３月】

京都府立東稜高等学校

平成31年度　府立東稜高等学校　学校経営計画

平成３１年４月１日

□　教育目標

「質の高い学力」と「信頼される人間力」を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

□　学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にＴＲＹ」をスローガンに、教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒の力が「伸びる学校」・生徒の力を「伸ばす学校」を目指す。

本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。

１　地域・生徒・保護者に信頼され、地域と密着し地域を教育で支える学校として様々な教育活動を展開する。
２　キャリア教育の推進を図りながら、前向きな社会生活を営むための職業観を醸成するとともに、生きる力を育み、社会に貢献できる人間力を育成する。
３　一人ひとりを大切にした厳しくも愛情のある生徒指導を軸に基本的生活習慣を確立し、「自学・自習」の習慣を定着させ、個に応じた希望進路の実現を図る。

□　本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

１　希望進路の実現に向けた具体的取組の充実
⑴授業を大切に授業規律の確保に努め、基礎学力の定着、発展的学力の向上を図る。
・授業への取組姿勢を伸長させるための３年間を見通した指導体制の確立
・アカデミーコース生徒等の学力向上に向けた３年間を見通した取組の工夫改善（東稜チャレンジ講座と進学補講の在り方検討、関係教科・進路部との連携）
・低学力生徒の学習状況等の把握と学習習慣の定着、「学び直し」学習の検討（基礎補充の在り方検討、学びの時間の継続、教科・分掌との連携）
⑵「カリキュラムマネジメント」を踏まえた、分掌・教科横断的な取組を検討する。
⑶新学習指導要領や大学入試制度改革への対応とさらなる授業の工夫改善を図る。
２　キャリアコース３分野のさらなる体系化と関係教科、分掌の連携・協働
各キャリアコースの特色をより明確化し、職業観の醸成、希望進路の実現につなげるとともに、各分野間の連携を図る。（カリキュラムマネジメントの推進）
３　人権教育の推進
一人ひとりを大切にした指導を通じて、自他の生命と人権を尊重する意識や態度を培う取組を推進するとともに、道徳心の醸成を図る。
４　生活指導の充実
⑴家庭、出身中学校、関係機関等とのより一層の連携を図り、個々の生徒の教育支援のさらなる充実を図る。
⑵基本的生活習慣を確立を目指し、挨拶の励行、遅刻指導、及び身だしなみに係る生徒指導を継続する。（教職員、自らの意識改革）
⑶生徒会活動や部活動などの自主活動を推進し、生徒を主体とした魅力ある行事を展開する。
⑷交通安全指導を徹底し、登下校時の自転車マナー、安全運転を励行させる。
５　生徒、家庭・保護者への連絡と広報活動等の充実
⑴ＨＰのリニューアルに伴い、日頃の教育活動や本校特色等のさらなる周知、広報に努める。
⑵気象状況の悪化や災害時における迅速な対応とＨＰ等を通じた速やかな連絡を行なうとともに、危機管理体制の確保に努める。
６　教育環境整備の推進
⑴ＩＣＴ環境の整備を進めるとともに、その具体的な活用方法について検討を進めるなど、生徒教職員にとってより良い教育環境の整備に努める。
⑵若手を中心とした「東稜改革プロジェクトチーム」を設置し、自由闊達な意見交換を通じて、校内環境の工夫改善、新たな校内システムの構築を促進する。
７　校内における働き方改革の推進
⑴メールによる欠席連絡システムを検討し試行する。
⑵教職員の働き方改革の推進に向けて、生徒・保護者への理解と協力を求めることに努める。

□　前年度の成果と課題

１　「学びの時間」を設定し、自学自習の雰囲気をつくることができた。環境整備や教科、分掌との連携を、より一層、密にする必要がある。
２　ライフマネジメントコースでも、多くの外部組織と連携する下地ができた。今後、キャリアコース全体の詳細な計画が必要である。
３　身だしなみや携帯電話、装飾品については、継続して指導する一方、生徒の自主的な活動の場面を設定・支援していくことが必要である。
４　学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を行った。地元中学校に対する積極的な訪問活動をさらに進めて行く必要がある。
５　支援対象生徒の明確化、支援センターとの連携強化、ＳＳＷの活用、ケース会議の開催等、きめ細かい支援体制の構築が必要である。
６　高大接続改革に関する情報の発信と共通テスト、学びの基礎診断、英語４技能試験に向けての準備を、より一層、進める必要がある。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	本校における特色ある教育活動を、全教職員の共通認識に基づいた取組に落とし込み、一体感または、支援する心を持って、援助・推進していける体制づくりに努め、取組体制の充実を図る。	教職員間での挨拶の励行等を徹底する。また、建設的な意見交流をしやすい、明るく活発な職場づくりを構築するとともに、学校経営方針の徹底と浸透を図る。	B	B	B	・明るく活発な職場環境のもと、各分掌間の連携を密にし、情報共有をすることができ、様々な課題への早期対応が図れた。 ・ICT 活用、高大接続、本校コース運営等の諸課題に対し、昨年に引き続き、各種プロジェクト会議等を通じて、将来構想についての検討を進めることができた。コース運営等の具体的な改革についても着手ができた。次年度以降、構想に基づき、どのように教育活動を進めていくのか、より一層の検討の深化、具体化等が必要である。 ・各種会議を開催し、「総合的な探究の時間」への移行措置、その他の課題について検討を開始した。次年度以降の変化に対応できる校内体制や生徒の学習環境・設備（ICT）等を整えることが課題である。
		東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、将来構想検討会議等を有効活用し、各種事業の継続と発展を図る。	A			
	本校の特色ある教育活動に工夫を加え、また、次年度以降を睨み、地域や保護者から信頼され、期待される東稜高校としての将来構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議、キャリアコース検討会議等を積極的に有効活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。	B	B		
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づき、各コースに対応した特色ある教育課程を編成する。	平成３２年度入学生について、特に各コースにおける生徒の興味・関心・進路希望等に対応した特色ある教育課程を編成する。	B	B	B	生徒の進路目標や学習目標に対応できるよう選択科目の配置に変更を加えた。総合的な探究の時間については、１年次に１単位を加え、教科横断的な指導体制で探究の基礎を学ぶことで２・３年次の学習につながりを持たせるように工夫した。
		総合的な探究の時間を効果的に設置し、３年間を見通した内容を確立する。	B			
学習指導	授業規律を確保し、授業と家庭学習習慣を大切にする態度を育成する。	教科・学年・生徒指導等と連携し、授業規律の現状に応じ、速やかに教科担当者会議等の対応策をとる。特に１年生について授業状況調査を実施し、全体状況を把握し、その後の指導に役立てる。	B	B	B	１・２学期に授業状況調査を実施し、得られた情報をもとに指導を行うことができた。状況に応じて教科担当者会議を開催し、分掌・教科と連携して指導にあたった。基礎学力補充については教科の要望を反映させた配置を行った。学力定着の取り組みとしての「学びの時間」については各分掌と協同して実施する体制を整えることで、生徒の自学自習を支えることができた。今後さらに効果的な指導について工夫する必要がある。
	新たな授業の手法と適正な評価について検証し、学習意欲の向上及び学力の伸長を図るとともに、原級留置・中途退学の防止に努める。	アクティブラーニングや ICT 機器を活用した効果的な指導法について研究し、実施する。	C	B		
		基礎学力補充・学びの時間を再整備し、さらに多目的室の有効活用を図る。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	全体の部活動加入率を引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としてのあり方を検討し、発信する。	B	B	B	学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに、個に応じた適切なタイミングでの指導は１年を通してできたことである。また文化祭、体育祭においては、ルールを緩和する所と守るべきところの明確化を図り、生徒にとって楽しむことに集中できる環境づくりはできた。服装に関して１年を通じて、身だしなみ指導を実践したが、「正しい服装」ができる生徒はの割合は飛躍的に上がった。 課題としては、基本的生活習慣の確立、安心安全の学校づくり、部活動加入率の３つが挙げられる。 朝の遅刻の最も大きな理由は、基本的生活習慣が確立されていないことにあるが、一部の生徒は家庭事情からアルバイトに係わり、バイト後に「深夜徘徊」を行っていることもある。また、携帯電話等への依存から昼夜逆転現象を起こしていることも原因となっている。「頭髪加工をしない」生徒が減少した訳ではないため、根本的な指導の徹底が課題である。 具体的な指導項目については、今年度の体制をベースに、より充実したものにする。教員間の共通理解と指導体制の徹底を促すために、生徒や地域の特性を把握しながら、全ての教職員が「教育支援機能」を有した指導しやすい生徒指導の確立をさらに強固にしたい。自分で自分をコントロールできる自律的人材の育成には課題が残った。社会に貢献できる人を育成するためにも、自律し自立することができる生徒を育てていくための具体的な方策を策定し、実践していく。
		地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。	B			
		各種ボランティア活動により一層、積極的に参加する生徒の育成を目指し、全校的な取組みへと展開する。	B			
	基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハンドブック」の活用と実践を充実させる。	B	B		
		駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や思いやる心の育成を図る。	B			
		学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに、適切なタイミングでの指導（注意、啓発・呼びかけ、話を聴く）を徹底する。	B			
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。	生徒会活動に助言・指導・支援をする。 各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図り、主体的に自治に関われる生徒を増やす。	B	B		
		新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の学校行事特別活動の内容の充実とふり返りにより、成長を促す。	B			
		自分で自分をコントロールできる自律的人材の育成に努める。自分でできる、できそうなことはできると信じて生徒に任せ、生徒の「できる」を育てていく。成長することによって、自己肯定感を高めていく。	B			
進路指導	生徒の３年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	各学年の進路指導のねらいを軸に、進路説明会や補習、また自主的に生徒が情報収集できる機会を図る。	B	B	B	昨年度からの課題を踏まえて、各学年や進路希望に応じた説明会や講座や補習等の機会を実施した。窓口である学年との連携を早い段階から密に計画をしていくことで、より一層の生徒への啓発指導ができると思われる。実力診断テストや英語４技能検定を実施した。実力診断テストについては、事前指導、事後指導のあり方を見直し、担任団との検討会議を行った。今後も継続的に行っていきたい。学校斡旋就職は１００％内定、公務員試験も健闘した。継続して１年次からきめ細かい指導をしていきたい。保育士・幼稚園教諭・看護師のインターンシップは、昨年度より倍増の参加率。しかし、一般企業の参加がなかったので、時期を学年と工夫して参加させていきたい。
		学校全体で、高大接続改革の情報収集する機会を設け、生徒や保護者への信頼へと繋げる。	B			
		進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。。	B			
	キャリア教育推進の一環として、常に職業観や生徒自身の力を自覚させられるような指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の事前事後指導を充実させ、教科・学年と連携し、分析を学習指導に役立てる。	B	B		
		将来を見据えた職業観をインターンシップ等の体験から育ませ、体験する機会を設ける。	B			

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			
人権教育	自己と他者を尊重する豊かな感性を育み、実践できる態度を育成する。 あらゆる教育活動を通して、基本的人権を尊重する精神の涵養を図る。	人権教育会議を開催し人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携・協議して実施する。	C	B	B	・人権学習や講演会では各分掌と協議しながら実施することができた。しかし人権教育会議を通じた組織的な活動は円滑に行えなかったので、次年度の課題としたい。 ・協働学習や文化祭活動、部活動を通じて他者を認め、理解しようとする態度を涵養できた。
		特別活動に限らず、学習活動を通しての人権啓発、また、学校行事や部活動を通じて、他者への理解、尊重する態度の醸成に努める。	B			
健康・安全教育	交通安全や薬物に対しての正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と道徳観を育成する。	１年生対象に「薬物乱用防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。	B	B	B	・「薬物乱用防止講演会」「情報モラル教育」を実施、登下校時の交通安全指導は計画通り行うことはできた。 ・ 自転車通学生徒対象に事前指導を徹底して、安全走行マナーの習得を推進することは課題である。自転車や交通安全のルール・マナー違反で地域からの注意を受ける回数も多く、教員が見ていないところで、生徒が自分でルールを守れる生徒の育成を来年度に推進していく。
		山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、ＰＴＡとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導（特に自転車走行のルール遵守）を推進する。	B			
		通学別に自転車危険箇所通学生徒対象に事前指導を徹底して、安全走行マナーの習得を推進する。	C			
	支援を必要とする生徒に対する情報を教職員が共有し、協力して具体的な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を掌握し、職員会議などで共有する。	A	B		・教育支援会議を定期的に実施し、各分掌・学年担任団代表、新規該当生徒の担任により生徒一人ひとりの状況を把握し、その情報を教職員間で共有した。また、特定の生徒については、出身中学校や関係諸機関と連絡をとって、支援の手がかりを探るなど、情報収集に努めた。 ・校内研修会を開催し、教職員の相談スキルの向上や特別支援についての理解・啓発に努めた。 ・インフルエンザの予防および出席停止の手続きについて、全校集会や「保健だより」、保健委員による校内放送を通して生徒に周知徹底した。 ・美化委員会は、文化祭でオープンカットのステージ前に花壇を設置しパフォーマンスに彩りを与え、ゴミの分別王に取り組んだ。また、美化キャンペーンを行い、俳句や標語を募集した。
		教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。	B			
		教育相談や特別支援についての理解を啓発する。	B			
	生徒が自分自身の身体や心についての理解を深め、自己管理できる能力をつけられるよう働きかける。	ソーシャルスキルに関する知識を持ち、実際に対応できる力を身につけさせる。	C	B		
		講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、生徒の意識を啓発する。	A			
		相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り強く指導する。	A			
		委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む仕掛けを作る。	A			
学校図書館	図書館の魅力ある環境づくりに努め、来館生徒数の増加を図る	「おはよう読書」週間、読書週間、東稜祭などの機会に各種イベントを開催する。	B	B	B	・「おはよう読書」や各種イベントなどはほぼ滞りなく実施することができた。 ・昨年度に引き続き、外部の公立図書館との連携を深め、学校図書館機能の充実にも努めた。 ・次年度は、委員会活動の充実を図りながら、イベントの内容を精選し、より深化を模索する。 ・情報機器の更新充実はおろか大幅な予算の削減もあって、備品購入すら厳しい状況であり、次年度以降も変わらないと思われる。 ・団体鑑賞については高い評価を得た。次年度の演目については、よい内容の演劇を選ぶことができた。生徒たちの反応が楽しみである。
		学校図書館としての機能をより充実させ、利用者の利便向上に努める。	B			
		「おはよう読書」活動の周知啓発に努め、本当の特色的活動として充実を図る。	B			
		図書委員会活動の活性化に努める。				
	情報分野の環境整備を進める。	時代に即応した視聴覚機器の更新・充実を図る。	C	C		
	芸術文化教育を推進する	第３学年を対象に「芸術文化団体鑑賞」を実施し、演劇活動への興味関心を高める。	A	A		
学習環境 安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取む意識を高める。	A	A	A	・考査前の２週間を美化週間、終業日前の約１週間を衛生活動週間とし、美化委員会の意思向上に繋げ、全校生徒の意識向上を目指した。 ・１，２学期期末考査後に、教室の床磨き、ゴミ箱の清掃を行った。
		委員会活動を通じて美化・衛生への意識を高める。	A			

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			成　果　と　課　題
施設・設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	教職員の連携と施設巡回を徹底することにより、破損箇所や危険箇所の早期発見・早期改修が可能な体制を推進する。効率的に予算を執行することにより教育環境の一層の改善を目指す。	B	B	B	・破損個所等の改修については今年度も各分掌と連携して早期に実施することができた。 ・予算については京都府全体の予算縮減の影響はあったが可能な限り効率的に執行できた。
情報・文書管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	紙媒体文書の適切な保管・廃棄や個人情報を含む電子データの適正な管理を徹底し、確実な情報管理体制を確保する。	B	B	B	・校内の文書管理については、保存年限を超過した文書の確実な廃棄、校内データの持ち出し禁止やセキュリティー機能を有する定められた記憶媒体の使用等を徹底することで、教職員の意識向上を図ることができた。
修（就）学支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	生徒の学ぶ機会を保障するための支援策を漏れなく周知することにより、在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、希望進路の実現を援助する。	B	B	B	・就学支援金の受給率が高く、進学希望者の多くが大学予約奨学金を希望する状況下、各種の修(就)学に関する支援を広報し、援助することができた。
家庭・地域社会との連携	開かれた学校を目指し、活発な広報活動や情報発信を行うとともに、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	昨年度より実施している中学校訪問を継続して行っていく。また、伏見・山科地域の中学校との情報交換を進めつつ、地下鉄沿線の地域の中学校にも積極的に学校紹介を展開していく。	B	B	B	1学期終了後に、中学校訪問を継続した。また、パンフレット作成を早期に進め、いち早く中学校に提供することができた。 学校説明会においては、生徒たちの発表が良い印象につながった。 一方で、学校説明会の時期の検討を進め、中学生のニーズにより応じた内容にしていく。
		学校説明会においては、教職員のバックアップの下、生徒が積極的に関わった形の説明会を実施していく。	B			
	ＰＴＡ活動と連携を図り円滑な運営に寄与する。	組織的な活動に努めることで、本部役員と常任委員及び学校との連携密にし、各種活動を通して保護者及び教職員間の交流を図り、開かれたＰＴＡ活動を実施する。	B	B		全体的に活動は活発に行われ、新しくメールによる連絡網も稼働し円滑な運営が図れた。 夏に行われた全国大会京都大会も、無事成功裏に終わり、本校からも十分な協力ができた。
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域の小・中学校などへの交流を進めていくと同時に、各種ボランティアや部活動などを通じて地域との結びつきを図る。	B	B		各種のボランティアの参加率を少しでもあげる取り組みを目指していく。一方で、マネジメントクラスによる地域の小・中学校での出前授業は一定の成果をあげることができた。

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			成　果　と　課　題
学　　年	【第１学年】 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切にし、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。	時間とルールを守り、言葉遣いや身だしなみなどを整え、基本的生活習慣を確立させる。 学習環境の整備、学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。実力診断テスト等の結果を振り返り、その後の学習の指針とする。 学級活動や面談を通して、進路意識を育み、目的意識を持って授業や部活動に取り組ませる。 校外学習などの学年全体での取組を通して、思いやり」の心を行動に繋げ、互いの個性を尊重して協力し合える集団づくりを目指す。	B B B A	B	B	・身だしなみの指導はほぼ徹底されているが、遅刻指導に従わない生徒が若干名見られた。。 ・現留生を含め、不登校傾向にある生徒が多数おり、転学などの進路変更者が多く出た。 ・基礎学力補充、学びの時間を通して基礎学力の底上げは一定程度できたものの、超低学力で日々の学習に困難を抱える生徒への徹底した指導ができなかった。 ・校外学習、文化祭活動、球技大会などを通して、生徒の自主的な取り組みを促すことができた。次年度の研修旅行に向けて、生徒の自主活動を一層進めていきたい。
	【第２学年】 中心学年としての自覚と責任感を備えた高校生活を送らせる。学校生活において、協力し合い、個性を生かした活躍ができる学年づくりを目指す。進路指導の確立に向けて個に応じた計画的な指導をする。	時間とルールを守る等、基本的生活習慣のさらなる定着を目指す。 進路学習や面談､外部機関との連携等を通して、具体的な進路目標を確立させる。 進路目標を見据えた上で、授業や自宅学習に真剣に取り組む姿勢を定着させる。模試や進路補習等を通して、学年全体で切磋琢磨できる環境を整える。 研修旅行・文化祭活動等の学校行事を通して、リーダーを育成し、各生徒の主体性と協調性を培い、本校の中心的学年としての責任感を養う。	B B B A	B	B	少数ではあるが朝の遅刻が改善されない生徒がいた。概ねほとんどの生徒は基本的生活習慣は確立された。第２，３学年を見据え進路指導を実施したが、２者、３者面談を定期的に実施し希望進路の実現に向けて指導が必要である。生徒に現状を把握させ、目標を見据え努力を継続させるには、模試等のデータや進路情報を完全に活用できるよう指導する教員の研鑽と、集団で生徒を指導する体制を確立する必要がある。研修旅行等の行事を通して時間や約束、ルールを理解し、守ることが実践できた。学年、クラスの中でリーダーシップを発揮できる生徒も見られ、次年度はより大きな集団でのリーダーとして活躍できる環境を整えていきたい。
	【第３学年】 各自の希望進路の実現に向けて、学習・生活・学校行事等、さまざまな場面で責任感を持って行動する習慣を持たせ、社会へ出るための心構えを作り、充実した高校生活を送らせる。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた細やかな支援を実現する。 学年全体が一体感を持ち、切磋琢磨し合いながら、進路実現に向けて邁進するために、進学補習や就職講座、自学自習の指導などを徹底する。 最高学年として、社会に出るにあたってのルールやマナーを徹底して身に付け、学習以外でも何事にも一生懸命に取り組む姿勢を育て、主体性やコミュニケーション能力を伸長する。	B B A	B	B	・個別の進路面談や面接指導、志望理由書の書き方指導など、個々に応じた進路指導を展開することができた。就職講座受講者も、概ね希望する企業への内定を受けるできた。一方で進学補習受講者や模擬試験受験者の少なさ、１年間継続的に進学補習に参加しようという意識の低さなどに課題を感じた。自学自習の徹底には、自習室などの学習環境の整備も含め課題が残る。 ・生徒主体となって取り組めた文化祭や体育祭などの行事は、学年全体の一体感を醸成し、卒業式に向けた生徒主導の取組に繋がった。 ・前年度比較での、遅刻や欠席、生徒指導件数の減少に合わせ、何事にも一生懸命に取り組ませる指導を展開できた。 ・卒業生として、母校の発展に自分はどう関わることができるかを考えさせ、同窓会の活動や母校応援ふるさと事業の周知を図りたい。

平成31年度　府立東稜高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　計画段階　・　実施段階　）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	生徒の意欲と努力を喚起し、評価する。	生徒の意欲を引き出す課題を提示し、適切に評価する。 小テストを組織的に実施し、漢字力や語彙力、古典単語力の定着を図る。	B B	B	B	・目標達成に向け生徒の力を引き出すために教科全体で継続的に努力した。 ・東稜チャレンジ講座等の中で受験を見据えた内容に多く取り組むことができた。 ・生徒の学力に合わせ、個別対応なども含めて進路指導や学習指導のあり方を検討する必要がある。 ・昨年度に比べ、試験問題や授業内容を共通のものにすることができた科目が増えたが、不十分な科目もあった。
	進路を意識した発展的な学力を育成する。	進学補習を実施し、その充実を図る。 社会人講師を活用して、幅広い考え方と感じ方に触れる。	B A	B		
	社会人として基礎力を育成する。	1年次より自己理解を促進し、文章表現力を高める。 発表をすることや、評価をし合う活動を通じて、コミュニケーション能力を養う。	C C	C		
	教員間の連携を深め、共通理解に努める。	教材や進度の打合せを綿密にし、試験の一部共有化を試みる。 生徒の情報を共有化し、指導に役立てる。	A A	A		
地歴公民科	個々の生徒に応じた指導のあり方を追求し、生徒の興味・関心・学習意欲を喚起させる教科指導・評価法をさらに工夫する。	学習ノートやプリント等の提出により生徒の知識定着度・理解度を日常的に確認する。授業内容に応じて協動的学びを取り入れ、生徒の思考・判断・表現する力を育成する。 研究授業等を活用し、指導や評価の情報の交流を推進する。	A B	B	B	・日常的な学習ノートやプリントの確認を通じて、生徒の知識定着や理解度を把握し、生徒の状況に応じた授業を展開することができた。また、教科会議等で授業実践や評価法などを共有できた。 ・視聴覚教材やフィールドワークによる課題学習を通じて、多角的な視野を育成した。 ・コースの特性や生徒の適正に応じた授業を計画し、実施できた。
	自ら積極的に学ぶ力をつけ、発展的な学習をさせる。	視聴覚教材や地図等を積極的に利用した体感的な学習、また外部機関との連携を図った授業や課題学習などのアクティブラーニングを展開し、生徒の学習意欲の向上させる。	B	B		
	生徒の進路目標に応じた授業を行う。	クラスの特性や生徒の適性・進路に応じた教材や授業方法を工夫する。	A	A		
数学科	「わかりやすい」「理解できる」授業を実践するだけでなく、生徒が「やり切る」姿を見届けるまでを意識して取り組み、不認定者数を減らす。	小学校・中学校でのつまずきを確認し、克服できる授業を入学当初に行う。 問題集の提出、平常テストや長期休業明けの課題テストなどをこまめに行い、基礎学力を定着させる。 コースに合わせた到達目標を設定し、連携しながら授業を進め、目標に達していない生徒に対しては適宜補習を行う。 公開授業後の検討を充実させ、教科指導力を高めあう。	B A A C	B	B	・到達目標を明らかにし、適宜、補習を行うことで多くの生徒が目標に到達することができた。 ・定期考査に加えて、平常テストを実施することで、基礎学力の定着を図ることができた。 ・普段の授業の進度等については教科内での連携を密にすることができた。一方で、各種模試の前後における指導などについて、教科内で統一した指導を行うことが不十分な状態であった。
	進路実現に向けた取組を計画的に進める。	府立高校実力テスト、進研実力テストなどの事前指導、事後指導を充実させる。 長期休業中に進学希望者対象の補習を実施する。 進路希望に沿った平常進学補習の充実を図る。	B B B	B		
	高大連携を積極的に進める。	大学からの出前授業等を行い、数学のつながりや有用性を実感できる機会を増やす。	B	B		
理　科	日々の授業において学習規律の向上に努め、視聴覚教材などを用いて、より一層の興味付けを行いながら基礎学力の涵養に努める。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。ICT機器の積極的な導入・活用を図る。 学習課題や小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣づけに努める。	B B	B	B	・複数教員で持つ講座に関して、進度報告等、連絡を密に取ることを心がけた。ICT活用において一定のレベルに達している教員もいるため、教科でノウハウを共有したい。 ・小テストの導入を推進し、学習に向かう生徒もいた一方で、事前に勉強を行わずに小テスト受験する生徒も多く見られた。動機付けも含めて学習の定着を図る必要がある。 ・進学補習については、ほぼ個別指導に近い形態で行った。生物はコースによる進度が異なるため、カリキュラムとの関連性を踏まえて実施する必要がある。 ・サイエンスリサーチにおいて高大連携、施設見学を行い、教科指導や進路指導に役立てた。生徒の実態に合わせた内容に一部改善することも検討している。
	充実した進路保障を推進するために、個々の希望に対応した適切な進路学習指導を実施する。	進学補習において、センター試験・二次試験対策など、個々の希望に応じ、充実した補習になるよう努める。	B	B		
	それぞれの分野に関する最新の情報提供を行い、教科の発展的指導・理系の進路指導の助力となるように努める。	関連する大学・企業・施設等の見学会や連携事業を計画的に実施し、教科指導、進路指導に役立てる。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションをしようとする態度を育成する。	コミュニケーション英語Ⅰ・英語表現Ⅰを中心にAETとのTT授業を定期的に実施する。またICTを活用して生徒の理解を深める。	B	B	B	新入試改革に対応できるよう、AETの協力を得てスピーキングテスト、ライティングテストを事前指導を含めて 計画的に実施した。スモールステップの課題を設け、生徒の基本的な学力の定着に努めた。またチャレンジ講座、学習合宿等で生徒に学びの場を提供した結果、意欲的に学ぶ姿勢が身についてきた。しかし課題を抱える生徒への対応をさらに工夫する必要がある。
	基本的な英語能力の定着を図る。	入学時に新入生の学力を把握し、基本的な内容の定着に努める。 小テストの実施やワークブックの活用により家庭学習習慣を確立させるように努める。	A A	A		
	進路達成に向けた教科指導の充実を図る。	副教材を取り入れ、密度の濃い授業を行う。 土曜授業等を活用し授業内容の充実を図る。 各学年に的確な進路補習を実施する。	A A A	A		
保健体育科	運動の意義について理解を深めると共に健康づくりや体力の向上の方法を理解させる。また、生涯にわたって健やかな身体を養うための実践力と知識を身につけさせる。	健康のさまざまな側面について理解させ、健康づくりのための運動の大切さを理解させるとともに体力つくりを実践する。 2時間連続の授業を確保し、持久走授業を通して循環機能や基礎体力の向上並びに体つくりを目指す。	A A	A	B	・毎時間のトレーニングや持久走を通して体力の向上とともに、生涯を通した健康づくりへの意識の向上を図ることができた。 ・集団行動を通して、規範意識の向上は図れたが、種目別の講座展開授業では、十分に発揮できていない傾向も見られた。 ・試合を通して、お互いに挨拶、フェアプレイ、審判による公正な態度を養うことができた。 ・個に応じた言葉かけなどを通して運動嫌いを無くしていく。
	心と体を一体としてとらえ、授業を通して運動を実践していく中で、心身の調和のとれた発達を促す。	年度初めに全学年に集団行動を取り入れ、規範意識の向上に役立てる。 体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦のつながりの強化を図る。	B B	B		
	個人生活や社会生活における健康や安全に関する事柄を生涯を通じて捉え、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し活動させるための心構えを身につけさす。	B	B		
	キャリアコースライフスポーツの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦のつながりの強化を図る。 外部講師の活用を充実させ、内容の整理を図りながら、より質の高い取組を実施することにより、専門種目の技術の向上に繋げる事を目指す。	A B	B		
芸術科	生徒自らが積極的に芸術に取り組む姿勢を身に付ける。また、芸術の表現や鑑賞の視野を広げられる心情や学力を養う。	授業規律を確保し、積極的に授業時間に取り組めるよう教材を工夫しながら、表現の質を高められ、かつ達成感が得られる指導を目指す。 社会や身の回りの人との関わりを大切にする鑑賞教育を進めながら、芸術文化を愛好し、相互鑑賞が可能になる授業展開をすることで情操感を養う。	B B	B	B	講座によっては、一部の生徒の指導に追われたが、授業時間内精一杯取り組める環境作りはできた。引き続き主体的に活動できるような授業展開をしていきたい。特に、3科目とも普段の生徒の様子を知ってもらう機会を設けたことで、生徒の情操感を高められた。
家庭科	生徒が自分の生活を幅広い視点から見つめ、主体的に生活の充実と向上を図る学びの方向性を示す。	主体的に生きる生活者として不可欠な技術・能力を身につけることを目標に実験・実習を取り入れる。 社会と自分の関わり、家庭生活と自分の関わりを実感し、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。	B B	B	B	・サポートクラスでは看護の講演を新たに入れた・１年生家庭基礎では消費者教育に力を入れた。・個々に対応が必要な生徒が多く時間がかかることが課題である。
情報科	情報活用の実践力を高めるとともに、情報社会に参画する態度を養う。	情報を適切に扱ったり、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識や考え方を学習させる。 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任を考える態度を養う。	B B	B	B	・一般的なソフトウェアでの習熟やプログラミングソフトでのプログラミング的思考を養うなど、情報を扱う上での基礎的な力を身につけさせることができた。 ・情報モラルについては2学期に筆記テストを実施し、情報を安全に使用する態度を養った。

学校関係者評価委員会による評価	・昨年に続いて、生徒が「魅力ある・楽しいと感じる学校づくりが大切であるとのご指摘をいただいた。「楽しい」について、生徒と教員との価値観のズレがあるのはやむを得ないところではあるが、厳しさの中で、生徒の自主性を発揮させるような取組が求められる。 ・「醍醐、山科」という地域に根ざした、地域との交流に積極的な取組を期待したい。 ・大学入試制度改革等の制度改革や社会情勢の変化を踏まえ、進路説明会等の適時実施も含め、丁寧な進路指導を期待したい。

次年度に向けた改善の方向性	・希望進路の実現に向けた具体的取組の充実。日々の授業を大切に授業規律の確保に努め、基礎学力の定着、発展的学力の育成を図る。 ・人権教育の推進。生徒の心に寄り添いながら、自他の生命と人権を大切にする意識や態度を培う取組を推進する。 ・生活指導の充実。基本的生活習慣を確立し、挨拶の励行、遅刻指導及び身だしなみに係る生徒指導の工夫改善を行う。交通安全指導の徹底。 ・生徒会活動や部活動などの自主活動を推進し、生徒を主体とした魅力ある行事を展開する。